研究結果について

課題名	所属	研究責任者	職名	結果
ミルクアレルギー発症予防のための，適切な新生児期の栄養方法に関する研究	小児科学	橋本　邦生	助教	残余検体から解析に必要な検体量の確保が困難であったため、本研究計画に基づく進行は中止した。
フローサイトメトリーによるBCL2-IGH融合遺伝子の検出	病態解析・診断学	宇野　直輝	助教	フローサイトメトリーによってBCL2-IGH融合遺伝子を検出する実験条件を検討したが、最適化が困難であり、現在の検体収集状況では最適化に必要な検体を収集することが不可能であると判断され、中止とした。
メトロニダゾール耐性ヘリコバクター・ピロリ菌感染実態の解明	附属放射線・環境健康影響共同研究推進センター	赤澤　祐子	准教授	適切な症例がなく、研究開始にいたらなかったため、中止とした。
間接免疫ペルオキシダーゼ法における新型コロナウイルス抗原の反応性の確認	熱帯医学研究所　臨床研究	森本　浩之輔	准教授	患者血清一本を馬原あかり医学研究所に譲渡した。 (長崎大学は検体を譲渡する立場であり、研究成果を得られないため)
口腔粘膜病変辺縁の診断における10%ルゴール液の有用性、為害性の臨床的検討	口腔腫瘍治療学	梅田　正博	教授	対象症例の95%以上で上皮性異形成の切除が適切に行うことができ、また有害事象は1例もなかった。他の代替品で代用可能となったため中止した。
口腔扁平上皮癌術後の再発高リスク例に対するＴＳ－１併用術後補助化学放射線療法の有用性の検討	口腔管理センター	柳本　惣市	講師	予定症例に達せず、中止した。
消化管における内視鏡的粘膜下層剥離術後の粘膜充塡による治癒促進に関する検討	消化器内科学	中尾　一彦	教授	粘膜充填の技術的な手技において、時間・労力を要し、出血予防や治癒促進の効果を認めなかったため、中止とした。
V-Loc（非結紮縫合糸）を用いた内視鏡的粘膜下層剥離術後の創部における内視鏡的粘膜・筋層縫合術に関する臨床試験	消化器内科学	中尾　一彦	教授	縫合に用いる機材の不備により安全な縫合が行えないことが判明し、研究は中止した。
水溶性ﾖｰﾄﾞ造影剤ｱﾚﾙｷﾞｰの既往を持つ肝細胞癌患者に対するｶﾞﾄﾞﾘﾆｳﾑ造影剤を用いた血管塞栓術の有用性の検討	消化器内科学	中尾　一彦	教授	水溶性ヨード造影剤アレルギーの既往のある患者に対してガドリニウム造影を行うことで、安全に造影は可能であった。しかしヨード造影剤使用時に比べ微細な血管の走行などの情報は得難く、血管塞栓術の精度が低下する可能性が危惧されたため研究を中止した。
胸腺腫瘍に対するパクリタキセル+シスプラチン療法	がん診療センター	福田　実	准教授	症例登録がなく中止となった。
膵癌術前化学療法としてのGemcitabine+ S- 1 療法（GS 療法）の第Ⅱ/Ⅲ相臨床試験（Prep - 02 /JSAP -05）	胃・食道外科	日高　重和	講師	研究責任者が退職したため中止となった。
健常日本人の椎弓根の形態解析	整形外科	津田　圭一	助教	予定症例数に届かなかったため中止した。
経口プロスルチアミンによるHAMの根治療法へ向けた臨床試験	脳神経内科	辻野　彰	教授	目標症例数10症例の内、9例で臨床試験は終了した。これらの症例においては、下肢の痙縮の軽減に伴って、歩行時間および階段降時間の短縮がみられ、また立位保持不能の例でも立位保持が可能となった。排尿回数の減少など排尿機能についても効果がみられた。1例で胃部不快感などの軽症の副作用がみられたが、投与を中止することなく、プロトコールは終了した。他8例では副作用の出現はみられなかった。本研究課題の成果を踏まえ、「経口プロスルチアミンによるHTLV-Ⅰ関連脊髄証（HAM）に対する新規治療法開発」（許可番号：11120275）の研究課題が遂行された。
肝胆膵疾患における手術摘出標本、検査試料、生検組織などの保存、研究への利用についての同意取得	胃・食道外科	日高　重和	講師	研究責任者が退職したため中止となった。
肝癌・胆道癌におけるターミナルペプチドの臨床診断的意義の検討	胃・食道外科	日高　重和	講師	研究責任者が退職したため中止となった。
聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育方法の開発等に資する研究	耳鼻咽喉・頭頸部外科学	佐藤　智生	助教	本研究は研究計画が一部変更となったため中止とし、整理番号2020-1-12「聴覚障害児に対する人工内耳植込術施行前後の効果的な療育方法の開発等に資する研究2」へ引き継がれた。
癌化学療法に伴う味覚異常の原因別分類、および原因に基づいた治療の有効性の検討	乳腺・内分泌外科	江口　晋	教授	症例集積ができず、研究を中止した。
網膜中心静脈閉塞症に対する 放射状視神経切開術の検証的臨床試験	眼科・視覚科学	北岡　隆	教授	症例選択が難しく、1例以降増やせなかったため中止とする。

炎症性皮膚疾患の末梢血・皮膚組織における皮膚疾患関連分子の発現に関する研究	皮膚病態学	室田　浩之	教授	研究分担者の退職に伴い終了とした。
シトリン欠損症に対するピルビン酸ナトリウム投与	小児科学	森内　浩幸	教授	登録した1例に関して、2013年5月14日よりピルビン酸ナトリウムを内服開始した。 2014年9月に登録した患児に対して生体肝移植が行われ、その時点で内服を終了していた。 以降、登録症例無く、当院でのシトリン欠損症に対するピルビン酸ナトリウム投与は行われて いない。
McCune-Alblight症候群に伴う末梢性思春期早発に対するｱﾅｽﾄﾛｿﾞｰﾙ投与について	小児科学	伊達木　澄人	准教授	2010年6月15日よりアナストロゾール投与を開始し、思春期は良好に抑制することができた。その後、年齢的にも身長的予後的にも終了が可能と判断し、2016年6月19日で飲みきり終了となった。その後は徐々に思春期発来しており、最終身長も171.5㎝（2020年3月30日）と効果は良好であったと思われた。その後は特に本研究に適合する患者はおらず、2017年3月31日で終了となった。
スーパーフィクソーブMX分解吸収過程の検証	形成再建外科学	吉本　浩	准教授	実施症例は15例であった。観察期間に分解吸収された症例はなかった。有害事象はなかった。
末梢血・皮膚組織における膠原病疾患関連分子の発現に関する研究	皮膚病態学	室田　浩之	教授	研究責任者等退職のため中止となった。サンプル収集されていたが検討はなされていない。
造影ＣＴ，拡散強調ＭＲ画像，ＦＤＧ-PETによる胸膜病変鑑別診断能の比較に関する前向き検討	臨床腫瘍学	芦澤　和人	教授	平成30年4月1日より施行された臨床研究法において特定臨床研究に該当する可能性があることから、経過措置期限である平成31年3月31日までに研究を完了できるように対応していた。 しかしながら、研究代表者の急病等の不測の事態が生じ、経過措置期限までに本研究を完了させることが極めて困難な状況となった。 埼玉医科大学国際医療センター検討委員会において、本研究が臨床研究法に定める特定臨床研究にあたると正式に判断されたため、2019年4月以降の研究続行が困難となり、やむを得ず2019年3月研究中止となった。
バルーン拡張式カニューレを用いた経鼻内視鏡前処置法の有用性の検討	附属放射線・環境健康影響共同研究推進センター	赤澤　祐子	准教授	同意が得られた症例がなく、実施できなかったため中止とした。
ARFIによる肝細胞癌治療患者の治療効果判定と肝線維化測定	消化器内科学	中尾　一彦	教授	解析に必要な症例を収集できず、中止した。
広範囲重症熱傷治療における自家培養表皮ジェイス®移植部位の皮膚粘弾性等の質的経時的評価	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止とした。
血管腫・血管奇形患者の全国実態調査とその予備調査	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止とした。
ｹﾛｲﾄﾞ，肥厚性瘢痕，瘢痕の臨床分類・評価実態調査	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止した
当院における献血推進のための輸血後実態調査	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止とした。
人工真皮（テルダーミス®）と植皮・粘膜移植及び皮弁を用いた同時再建に関する研究	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止とした。
大陸横断創傷登録(Transcontinental Wound Registry，TWR)研究-実用検討、feasibility study-	形成再建外科学	田中　克己	教授	実施症例がなかったため中止した。
脳腫瘍における母子間マイクロキメリズムの検討	脳神経外科学	松尾　孝之	教授	病理学的検討に使うFISH試薬が高額と判明し、資金面で実験不可能であった。研究計画書の通り、男児妊娠既往のある症例候補の検索については、カルテ情報を基に行ったが、実際の実験や病理学的検討を行った症例は0であるため、症例数は0例として報告する。申請者が他の検討課題を見出し、IRB了承の上、博士論文作成が達成できたため、本研究は中止とした。
MRIによる口腔乾燥症患者唾液腺における脂肪浸潤診断の重要性に関する検討	頭頸部放射線学	高木　幸則	助教	MRIによる唾液腺への脂肪浸潤と口腔乾燥症患者の唾液量との間に相関は認められたが、その臨床的意義やメカニズムの解明に繋がるような有益な解析結果の取得までには至らなかった。そのため、研究が休止状態となり中止とした。
心症状を呈する患者に対するファブリー病スクリーニング	循環器内科学	前村　浩二	教授	症例数が少なく、詳細な検討ができなかった。

色素レーザーによる肥厚性瘢痕の治療	形成再建外科学	吉本　浩	准教授	症例数が少なく中止とした。
甲状腺癌放射性ヨード内用療法で見られる嘔気・嘔吐の発現における心理的要因の研究	リウマチ・膠原病内科学	川上　純	教授	実施症例数不十分のため中止とした。
小児の嚥下造影検査における低浸透圧性非イオン性ヨード系造影剤の使用	小児歯科	釜崎　陽子	講師	4名の小児患者に対して、低浸透圧性非イオン性ヨード系造影剤を使用して嚥下造影検査を実施した。
日本国内の脳神経血管内治療に関する登録研究４	脳神経外科	堀江　信貴	講師	当施設の入力準備がまだ整っていないため、一旦中止とする。
新規リンパ節転移診断法（SDB法）の肺癌への臨床応用	呼吸器外科	永安　武	教授	すでに当科において乳癌にて使用していたSDBリンパ節キットを使用して肺癌のリンパ節洗浄液を同様の方法にて適用していたが、7例（60サンプル）登録時点で多くのキットで洗浄液が流れないという不具合があり継続困難となった。不具合の原因としては肺のリンパ節は乳癌のセンチネルリンパ節と比較して大きく、洗浄液中に含まれる細胞も非常に多いため、粘性が増して流れなかったものと推測された。一方で、流れたサンプルについては転移陽性のリンパ節において問題なく検出できていた。肺癌に特化した新たなprotocolを考案に時間を要するため、再度仕切り直す必要があると思われ、中止が妥当と判断した。
腸内細菌叢がC型肝炎ウイルス排除後肝発癌に 与える影響の解析	消化器内科	中尾　一彦	教授	SVR後発癌症例の症例数が不足しており、研究を中止した。
In vitro がん脳転移評価モデルの臨床応用	脳神経外科	藤本　隆史	医員	採取した検体より初代培養細胞をisolationすることが困難であり、現時点では今後の研究継続が難しいと判断したため中止とした。
低分子化合物を用いた白血病および骨髄異形成症候群に対する新規免疫療法の開発	血液内科	今泉　芳孝	講師	症例収集が困難なため、研究を中止した。
ＡＴＬリンパ系腫瘍に対する低分子化合物を用いた新規免疫療法の開発	血液内科	今泉　芳孝	講師	研究期間内での予定の症例収集が困難なため研究を中止した。
乳腺疾患におけるソナゾイド造影超音波検査画像と病理組織学的所見の比較検討	放射線科	瀬川　景子	助教	症例数が予定よりも少なく充分な検討ができなかった。研究責任者が研究期間中に産休・育休となったこと、担当病理医主任者が異動となったことが重なり研究を中止とした。
頭頸部腫瘍の鑑別におけるASLの有用性についての検討	頭頸部放射線学	角　美佐	准教授	長崎大学病院耳鼻咽喉科・頭頸部外科に、主に唾液腺腫瘍の切除目的にて入院した患者を対象に、病院第２ＭＲ室で、診療時間外（１８時以降）に、病変のＭＲ撮影（ＡＳＬ撮影）をする予定でしたが、実際には手術前日に入院するケースがほとんどで、手術前夜に、研究目的でＭＲ撮影をすることに対して同意を得ることが難しく、やむなく中止となった。
HER2陰性再発乳癌患者の初回治療としてのエリブリンの臨床的有用性に関する検討	移植・消化器外科学	江口　晋	教授	該当症例なく、症例登録終了し、当科の研究参加を中止した。 研究自体は学会にて結果報告されている。
HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法におけるトラスツズマブ単剤と化学療法併用に関するランダム化比較試験	移植・消化器外科学	江口　晋	教授	該当症例なく、症例登録終了し、当科の研究参加を中止した。 研究自体は結果報告されている。
HER2陽性の高齢者原発性乳がんに対する術後補助療法における観察研究	移植・消化器外科学	江口　晋	教授	該当症例なく、症例登録終了し、当科の研究参加を中止した。 研究自体は結果報告されている。
JBCRG-MO3　HER2陽性進行・再発乳がんに対するトラスツズマブ、ペルツズマブ、エリブリン併用療法の有用性の検討試験（第Ⅱ相試験）	移植・消化器外科学	江口　晋	教授	該当症例なく、症例登録終了し、当科の研究参加を中止した。 研究自体は学会で結果報告されている。
閉経後・ホルモン感受性乳癌における術前Exemestane（EXE）療法とEXE療法効果不十分例に対するEXE+低用量CPA併用療法有用性確認試験付随研究	移植・消化器外科学	江口　晋	教授	当科からは症例登録できず、症例登録中止によって当科からの研究への参加が中止となった。
重度口腔乾燥症の新規治療法開発を目的とした末梢血単核球からの免疫寛容・抗炎症・血管再生細胞の増幅培養法の確立	細胞生物学	住田　吉慶	准教授	頭頸部放射線治療後の患者末梢血から培養を行い、再生アソシエイト細胞の培養法を確立した。

最新のWHO分類による 脳腫瘍の病理遺伝子統合診断	脳神経外科学	氏福　健太	助教	2019年3月に継続申請を行ったが、申請内容不備な点が目立ち、中止申請が適当と判断した。
抗酸菌感染症患者における抗サイトカイン自己抗体の解析	呼吸器内科	西條　知見	助教	症例の集積が少なく、また、自己抗体はいずれも陰性あったことから、症例集積、および結果ともに研究継続に十分なデータが得られないことが予想されるため、中止とした。
ナショナルデータベースを用いたチクロピジン塩酸塩製剤の血球算定および肝機能検査の実施率に関する調査	薬剤部	赤松　隼人	薬剤師	研究者の異動のため研究中止とした。
アポクリン汗腺癌、原発切除および術後放射線化学療法後の肺多発転移例に対するEC療法	皮膚科・アレルギー科	鍬塚　大	講師	肺転移を有し根治切除不能な皮膚原発アポクリン腺癌の症例１例に対して、エピルビシンとシクロフォスファミドの点滴投与を行った。特に有害事象はなく、遂行できたが、病勢の増悪がみられたため、投与は３回で終了となった。
十二指腸領域における内視鏡システムLCI(Linked Color Imaging)による画像強調観察の有用性の評価	光学医療診療部	橋口　慶一	助教	色差の定量的評価では、BLI・LCIのいずれとも病変と背景粘膜との色差に有意差を認めず、拾い上げ診断能の向上を支持する結論は得られなかった。同様に、病変中心部と病変辺縁部との色差も腫瘍の異型度との相関はみられず、非拡大観察の質的診断能の向上を示す結果は得られなかった。
救命救急センター入院患者の検体保管と研究目的使用	高度救命救急センター	田島　吾郎	助教	当初は検体の研究利用の包括同意書目的であったが、現在は個々の研究計画書に基づいて行うため、1例のみの実施のまま、本研究が不用となり中止とした。
自閉症スペクトラムと先天性サイトメガロウイルス感染症の関与に関する研究（多施設共同研究）	小児科	森内　浩幸	教授	検体数が集まらず中止となった。
遺伝性乳がん・卵巣がん症候群に対するリスク低減手術(卵巣卵管切除術/対側乳房切除術）	乳腺・内分泌外科	永安　武	教授	2例の遺伝性乳癌卵巣癌症候群患者に対してリスク低減卵管卵巣摘出術を施行した。
IgA腎症の治療反応性を予測する後方視的な多施設共同研究	血液浄化療法部	西野　友哉	教授	共同研究施設である宮崎大学医学部附属病院　第一内科、大分大学医学部附属病院　腎臓内科からの患者情報の提供がなく、予定症例数まで到達しなかったため中止となった。
肺上皮細胞由来サイトカインが肺炎の予後規定因子となるかを明らかにする調査研究	呼吸器内科	山本　和子	助教	検体が十分に収集できなかったため中止した。
結核におけるサイトカイン動態の経時的変化の解析	熱帯医学研究所　臨床研究	山下　嘉郎	助教	研究責任者が2020年3月31日付で退職見込みであり、研究継続が困難と考えられるため、同日をもって中止とする。
滋賀県内の先天性難聴における先天性サイトメガロウイルス感染症の関与についての研究	小児科	森内　浩幸	教授	共同研究辞退の申し出があり症例登録がないため中止となった。
スーグラによる肝機能改善効果の検討試験	消化器内科	中尾　一彦	教授	当院からは16例登録を行ったが、多施設からは十分な収集が行えなかったため中止した。
基礎インスリン併用GLP-1作動薬治療(BGT)の長期有効性予測に関する研究	内分泌・代謝内科	伊藤　文子	助教	適当な対象症例がなく、研究を継続する意義がないと判断したため中止した。
耳真珠腫に対する5フルオロウラシル（5FU）軟膏の効果に関する研究	耳鼻咽喉科・頭頸部外科	高橋　晴雄	教授	期間内に症例数が集まらなかったため中止した。
関節リウマチ患者におけるインドシアニングリーン増強蛍光光学画像検査の有用性の研究	地域医療学	川尻　真也	講師	先行研究での解析完了と本研究における症例登録不足のため中止した。
顎変形症治療が顎関節に及ぼす影響	顎口腔再生外科学	大場　誠悟	准教授	後ろ向き研究が妥当であることがわかり、一旦研究を中止し、改めて後ろ向き研究として再度計画書を作成することとした。
切除可能進行口腔癌に対する即時再建手術における周術期管理方法に関する多施設調査 ～手術部位感染（SSI）発症のリスク因子を検証～	口腔外科	柚鳥　宏和	講師	2施設のみの検討となり、抗菌薬の使用期間が有意に関係していた、その他の施設では検討困難とのことで計画を中止した。

高安動脈炎の患児に対する抗インターロイキン(IL)-6レセプター抗体（Tocilizumab）による治療	小児科学	橋本　邦生	助教	実施した患者について治療効果はよく、有害事象は認めなかった。 トシリズマブが高安動脈炎に対して保険収載されたことを契機に研究として実施する必要がなくなり中止した。
未治療切除不能局所進行非小細胞肺癌に対するエルロチニブ投与有用性の検討	呼吸器内科学	迎　寛	教授	症例登録がなく中止した。
口腔癌に対するセツキシマブの治療効果を高めるための薬剤感受性機構の解明	口腔顎顔面外科室	土橋　宏輝	大学院生	当院病理部で保管しているFFPEを薄切片にし検査部に提出したところ、FFPEのDNAに損傷がある為、抽出した、セツキシマブ耐性に関与する可能性ある遺伝子をIon AmpliSeq™CancerHotspot Panel v2を使用し網羅的に解析、同定が不可能との報告を受け、本研究は中止とした。
ステージング手術が行われた上皮性卵巣癌I期における補助化学療法の必要性に関するランダム化第III相比較試験(JGOG3020試験)	産科婦人科学	三浦　清徳	教授	特定臨床研究への移行済み、本研究は終了する。
hydroxyapatite/collagen composite materialを用いた抜歯後歯槽骨の温存に関する臨床研究	顎口腔再生外科学	大場　誠悟	准教授	使用材料が医科領域では認可を得ているが、歯科領域での認可を得ていない。そのため特定臨床研究への移行が必要であり、本研究は終了する。
hydroxyapatite/collagen composite materialを用いた上顎洞底挙上術に関する臨床研究	顎口腔再生外科学	大場　誠悟	准教授	使用材料が医科領域では認可を得ているが、歯科領域での認可を得ていない。そのため特定臨床研究への移行が必要であり、本研究は終了する。
歯周組織炎、インプラント周囲炎に対する光殺菌治療の効果の検証	顎口腔再生外科学	大場　誠悟	准教授	使用する光殺菌治療用の照射機であるFotoSan630は日本ではまだ承認されていない医療機器であり、特定臨床研究への移行が必要なため中止とした。
NAFLD/NASH合併2型糖尿病における選択的SGLT2阻害剤イプラグリフロジンとDPP-4阻害薬との無作為化比較試験による臨床的有用性の検討-多施設共同研究-	臨床研究センター	佐藤　俊太朗	助教	本研究はDM業務の受諾研究であり、試験途中であったが受諾契約期間満了となり全ての業務を佐賀大学に移管したため、結果は把握していない。
膵切除後の合併症予防を目的とした術前の適正栄養ならびに運動プログラム	肝胆膵外科・肝移植外科	足立　智彦	講師	研究者の退職に伴う対応不能にて中止とした。
アトピー性皮膚炎に対するステロイド外用療法の再発に及ぼす影響～血清TARCの変動を含めて～	皮膚病態学	竹中　基	准教授	寛解後も2週間ステロイドの外用を継続し、その後保湿剤に切り替えた群が、寛解後にすぐに保湿剤に切り替えた群に比べ、再発までの期間が長い傾向にあった。しかし、再燃時の症状の程度には差が無かった。また、いずれの症例も、寛解時には、TARCの低下がみられていた。ただ、症例数が少なく、統計学的な検討は行えなかったため中止した。
KN01 のミトコンドリア脳筋症（ MELAS ） を対象とした多施設共同長期投与試験	脳神経内科	白石　裕一	講師	本臨床研究は中止し、医師主導治験として試験を継続した。
腹腔鏡下および腹腔鏡補助下アプローチによる系統的肝切除術の臨床試験	胃・食道外科	七島　篤志	准教授	研究申請者の退職に伴い中止となった。
デンタルインプラントEMINEOを用いた短期的臨床調査	口腔インプラント学	黒嶋　伸一郎	准教授	選択基準を満たす患者を選択することが困難となり、中止となった。
慢性肝疾患患者を対象とした肝発癌に関連する 血中エクソソーム中microRNAの網羅的解析	消化器内科	三馬　聡	助教	症例数不足のため中止した。
薬剤師による入院前術前中止薬スクリーニング業務の手術延期抑制効果の評価	薬剤部	黄　智剛	薬剤師	既報あるため、新規性なく中止した。
血流感染症の迅速分子診断	病態解析・診断学	宇野　直輝	助教	臨床検体を用いて細菌DNAを標的にしたデジタルPCRを行なったが、実験系が安定しなかったため、一旦中止し、in vitroの実験で実験系を確立する。
血液透析患者におけるカルシミメティクスによる 骨の微細構造変化に関するパイロット研究	血液浄化療法部	北村　峰昭	助教	カルシミメティクス製剤を投与された血液透析患者の骨微細構造の変化の検討をHRP-QCTを用いて1年間かけて追跡した。カルシミメティクスの投与を行っても骨微細構造に大きな変化は認められず、中止となった。カルシミメティクスを開始した際に、二次性副甲状腺機能亢進症に対する十分な介入が行われていることが関係しているものと考えられた。

各種消化管疾患のおける口腔内細菌叢・胃内細菌叢・腸内細菌叢の統合解析	消化器内科学	磯本　一	准教授	研究責任者の転勤のため中止した。
悪性度の高い分化型甲状腺癌とCA19-9の関係	内分泌・代謝内科	安藤　隆雄	講師	本研究を行っても臨床的に有意義な結果は得られないと判断したため中止した。
分子標的薬の甲状腺癌への有効性におけるCA19-9の役割の検討	内分泌・代謝内科	安藤　隆雄	講師	細胞株などを用いた基礎検討を行ったところ、技術的に困難であることが判明し、患者検体を用いた研究を中止することとなった。
院内製剤「ヘマトクリット値80%調整洗浄赤血球」	小児科	岡田　雅彦	准教授	研究期間中「ヘマトクリット値80%調整洗浄赤血球」を使用した患児は発生しなかったため、研究対象者は0名となり中止した。
小児および若年成人におけるT細胞性急性リンパ性白血病に対する多施設共同第Ⅱ相臨床試験（JPLSG ALL-T11/JALSG T-ALL-211-U）	原爆・ヒバクシャ医療部門	宮崎　泰司	教授	特定臨床研究に移行するため、登録がない当院では研究終了となった。
成人Burkitt白血病に対する多剤併用化学療法による第Ⅱ相臨床試験（JALSG Burkitt-ALL213）	原爆・ヒバクシャ医療部門	宮崎　泰司	教授	症例数が予定に達せず、中止となった。
慢性蕁麻疹に対するレボセチリジン塩酸塩の増量効果とQOLの検討	皮膚病態学	竹中　基	准教授	重症例の蕁麻疹の症例紹介が多いが、ほとんど既にレボセチリジン塩酸塩の増量が行われているが無効であった症例のため、検討に適する症例の集積が進まず、研究を中止した。
下顎枝垂直骨切り術後の後戻りと顎関節運動の関連性の検討	顎口腔再生外科学	大場　誠悟	准教授	検討を行ったが、明らかな相関性が得られなかった。そのため、一旦終了とし検討の組み直しを行う。
日本人のがん性突出痛の特徴と治療の現状、患者満足度調査	麻酔科	北條　美能留	助教	他施設との調整段階で調整困難となり研究が中止となった。
造血器悪性腫瘍治療後に発症した口腔癌における病態の検討と治療に影響する因子についての検討	口腔外科	柚鳥　宏和	講師	中心施設予定であった施設の不参加と、検体収集が困難で他施設での協力が得られなかったため中止した。
フェンタニル製剤からオキシコドン製剤への切り替えに関する研究	薬剤部	橋詰　淳哉	薬剤師	フェンタニル製剤からオキシコドン製剤へ切り替えた後の有用性と安全性の評価を目的としていたが、ほとんどの症例において、オキシコドン製剤切り替え後にオキシコドン製剤の増量が行われており正確な評価ができなかったため中止した。
内視鏡下甲状腺・副甲状腺手術の導入	移植・消化器外科学	山之内　孝彰	講師	該当する適応患者がおらず、登録なしとなり中止した。
輸入角膜を用いた角膜移植術	眼科	上松　聖典	講師	角膜内皮移植に用いるプレカット角膜を、輸入に頼らず自施設で作製することが可能となったため、中止した。
前眼部三次元画像解析（先進医療A）	眼科	北岡　隆	教授	平成30年4月から前眼部三次元画像解析は先進医療でなくなり、保険収載されたため中止した。
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌の保菌に関する実態調査	感染制御教育センター	寺坂　陽子	看護師	長崎県におけるCREの実態を把握するために、2017年12月～2018年10月にかけて、県内の医療機関6施設から提出された500便検体について調査した。クロモアガーmSuper CARBA/ESBL分画培地を用いてCREスクリーニングを行った結果、CREの検出数は0件であり、市中におけるCREの拡散は認められなかったため中止とした。
新規リンパ節転移診断法の甲状腺癌への臨床応用	乳腺・内分泌外科	大坪　竜太	助教	乳癌のSDB法をもとに本研究で甲状腺癌に応用したが、乳癌とは異なり良い結果が出なかった。現時点では臨床的有用性はないと判断し、研究中止とした。
医療事故発生時の診療録記載についての研究	産科婦人科	長谷川　ゆり	講師	平成25年からインシデント発生時の記録について監査を行ない、監査結果を周知することにより、記載の質の向上を図ってきた。周知の効果もあり年々記載されるようになってきている。 当初の研究申請者等の退職、異動により監査継続が困難なため本研究は中止とする。

大腸菌由来組み換えヒトGM-CSF吸入療法による自己免疫性肺胞蛋白症の治療研究	熱帯医学研究所	森本　浩之輔	准教授	のべ2例（1名を2回登録した）行いすべて有効であった。 同等薬剤の治験が2016年以降二つ行われ登録症例の集積が見込めないこと、臨床研究法への対応が困難であることから中止とした。
血中サイトメガロウイルスDNA 定量試薬「cobas CMV」に関する相関性評価	病態解析・診断学	柳原　克紀	教授	薬事申請をおこなうにあたり、内容を改訂した研究計画を新たに申請するため中止とした。
長崎大学病院における医師と診療情報管理士の共同による診療録の質的監査	産科婦人科	廣瀬　弥幸	准教授	平成25年～平成29年にかけて対象症例の診療録の経過記録記載と退院時要約について、医師と診療情報管理士の共同により質的監査を行いその結果について各診療科へ周知を行なった。 毎年の監査と周知により平成25年より年々診療録の質的向上を図ることができた。 今後は監査形式を変更するため本研究は中止とする。
日本国内未販売インプラントの使用	口腔・顎・顔面インプラントセンター	尾立　哲郎	講師	予定通り3症例に対して実施した。上部構造（補綴装置）装着後、6ヶ月の経過観察を行ったが、全症例ともに有害事象の発生は認められなかった。
患者の残余検体保管と研究目的使用	小児科学	橋本　邦生	助教	保管目的の申請を研究計画として行ったが、倫理規定の変更等もあり実質本研究計画に基づいて保管することに意義がなくなったため中止した。
川崎病患者の検体保管と研究目的使用	小児科学	橋本　邦生	助教	保管目的の申請を研究計画として行ったが、倫理規定の変更等や川崎病の他施設共同研究への参加にあたり別途検体・臨床情報取得の研究を開始したため、実質本研究計画に基づいて保管することに意義がなくなったため中止した。本研究で取得した検体はすでに破棄した。
心臓血管外科手術前の高齢者を対象とした呼気筋トレーニングが術後の最大呼気口腔内圧に及ぼす影響	理学療法学	神津　玲	教授	本研究は以下の理由により遂行が不可能であると判断し中止とした。 ①対象者の選択基準である「入院」症例が予想以上に極めて少なかった。 ②基準を満たした対象3例は必然的に重症例となり，術後に多くの合併症を発症して経過が長期化したため，術前呼気筋トレーニングの影響の評価が不可能であった。 ③研究分担者である谷川和好医師（心臓血管外科）が当院を退職されたため，研究期間を延期しての対象者のリクルートが極めて困難となった。
ヒト正常皮膚における真皮細胞外マトリックス成分分子の年齢層による変化について	皮膚科・アレルギー科	鍬塚　さやか	助教	共同研究者に検体を送り、研究継続するため中止した。共同研究者で新規申請を行う。
ステロイド抵抗性慢性肺疾患をもつ幼児に対するピルフェニドンの使用	小児科	森内　浩幸	教授	１症例について短期使用したが、明らかな改善効果はなかった。以後は新たな症例がなく１症例のみで中止とした。
銀増幅イムノクロマト法を用いたマイコプラズマ検出システムの性能評価	検査部	柳原　克紀	教授	収集された15検体のうち、日常検査で陽性であったのは3例であった。検体を生理食塩水を用いて分注した後の測定では、すべての検体において3法の結果がいずれも陰性であった。
乳房温存手術後の寡分割照射法における安全性の検討	先端医育センター	江川　亜希子	助教	ガイドラインの改定により、臨床にそぐわなくなったため、開始前に中止した。
亜鉛トランスポーター8（ZnT8）抗体による1型糖尿病の発症予知および診断に関する研究	内分泌・代謝内科	堀江　一郎	助教	対象症例がおらず、研究は中止となった。
KSCC1301-A 下部進行直腸癌の術前化学療法に対する 有効なバイオマーカーの開発 ～抗癌剤と免疫チェックポイント阻害剤併用に関する基礎検討～	肝胆膵外科・肝移植外科	小林　和真	助教	この試験はKSCC1301の附随研究として計画されたが、当初は症例集積が著しく不良であったこと、その後、この試験に興味をもった小野薬品工業が資金提供を申し出たこと、免疫チェックポイント阻害剤が多く使われるようになり新知見も増え、研究項目の改訂も必要になったため、この試験は実際には始動せず、症例集積も行われずに終わり、改良版のKSCC1301-A2として新たに出発することとなった。この試験には当科は参加予定である。
長崎大学病院入院患者への歯科治療の臨床成績評価	総合歯科診療部	野上　朋幸	助教	研究対象である医科入院中の歯科受診患者が当科だけではなくなり、新たに研究対象となる患者情報の管理が困難となり中止した。
外傷後凝血性血胸に対する治療法の確立に向けた多施設研究	救命救急センター	田崎　修	教授	多施設において、1000症例以上ある外傷症例の中から、胸腔ドレーンを挿入した胸部外傷に対する治療経過、およびRHの発生状況を調査した。60例の中に凝血性血胸と診断できたのが2例、疑い7例が認められ、そのうち2例は膿胸を合併していた。現在、凝血性血胸の明確な定義はなく、今後、その発生率や危険因子を明らかにするとともに、最適な治療法を確立する必要がある。

経直腸超音波ガイド下前立腺針生検（TRUS-PNB）後の腸管外病原性大腸菌（ExPEC）感染症の発生率、ExPEC　O血清型の分布、ExPECの症例定義、及び健康アウトカムを検討する前向き研究	泌尿器科学	計屋　知彰	助教	登録した15例のTRUS-PNBに関連する診療情報を研究依頼者に提供した。 なお、当院ではTRUS-PNB後のExPEC感染症は1例も認められなかった。
食道アカラシアと腸管内細菌叢に関する多施設共同探索的研究	消化器内科	南　ひとみ	助教	共同研究施設の都合により実際に行うことができなかったため中止した。
ダウン症患者の排尿障害の病態解明と塩酸ドネペジル療法に関する研究	小児科	森内　浩幸	教授	小児ダウン症患者の排尿機能障害を有する3例に対して塩酸ドネペジルを用いたところ、当初は改善があったように思われたが、結果使用前と有意差なく、副作用と思われる疝痛発作が出た症例が1例あり、投与を中止した。症例の集積が困難であったために終了した。
EBウイルス感染症の血清学的診断標準化に向けた検討	小児科	森内　浩幸	教授	研究実施期間中に当科では2例のみ同意を得て検査を行った。国内多施設共同研究であったが、全体でも症例の集積ができず、研究は完遂しないまま中止された。
ダウン症候群患者の排尿機能障害に対する塩酸ドネペジル療法	小児科	森内　浩幸	教授	小児ダウン症患者の排尿機能障害を有する3例に対して塩酸ドネペジルを用いたところ、当初は改善があったように思われたが、結果使用前と有意差なく、副作用と思われる疝痛発作が出た症例が1例あり、投与を中止した。症例の集積が困難であったために終了した。
乳癌術後補助療法の説明および治療選択におけるChemoCalcの有効性の検討	移植・消化器外科	江口　晋	教授	試験デザインを改善して、新しい臨床試験を行う予定であるため中止した。
悪性リンパ腫の分子標的療法のターゲットになる新規遺伝子探索 -全エクソーム-全トランスクリプトーム解析-	血液内科	今泉　芳孝	講師	研究主体である国立がん研究センター東病院の担当者の辞職により中止した。
ダプトマイシン使用症例の検討	検査部	栁原　克紀	助教	研究分担者の異動により中止した。
乳癌化学療法におけるoral cryotherapyの口腔粘膜炎予防の有効性と安全性の検討	移植・消化器外科	江口　晋	教授	研究計画書で規定した化学療法レジメンFECは、ECと比較し予後が変わらない一方で副作用が多いという結果が明らかになり、予定症例数が集まらないため中止した。
beads TACEの有効性および肝予備能に与える影響に関する検討	消化器内科	宮明　寿光	病院講師	収集・測定が困難な項目があったため中止した。
スコポラミン軟膏による唾液誤嚥抑制効果の検討	特殊歯科総合治療部	三串　伸哉	准教授	臨床上該当となる症例が無く、０件の介入で研究期間終了となったため中止した。